

令和 8 年 2 月 4 日

長泉町議会議長

様

会 派 名 新緑

会派代表者名 井出春彦



会派調査研究・研修報告書

このことについて、下記のとおり会派調査研究・研修を実施したので、報告いたします。

記

調査研究・ 研修者氏名	宮口嘉隆、井出春彦、堀内浩、長野晋治、小永井康一、 若林徹、石川美穂、
調査研究・ 研修月日	令和 8 年 1 月 28 日(水)～ 令和 8 年 1 月 30 日(金)
調査研究・研修地 及び事項	(1)目的地(広島県安芸郡府中町) 日 時 令和 8 年 1 月 28 日(水)午後 1 時 30 分～14 時 30 分 内 容 子どもの予防的支援構築事業 について
	(2)目的地(広島県広島平和記念資料館) 日 時 令和 8 年 1 月 29 日(木)午前 10 時～11 時 内 容 原爆に関する資料展示 について
	(3)目的地(広島県広島市) 日 時 令和 8 年 1 月 30 日(金)午前 10 時～11 時 30 分 内 容 豪雨災害被災地の復旧・復興 について (災害時の情報伝達手段)
調査研究・研修地 内容等	別紙のとおり (1) 内容 (2) 現状 (3) 町行政との相違・留意点と、研修成果による提言 (4) 添付資料

8.2. 4
328

(別紙1)

■内容
広島県安芸郡府中町における「子どもの予防的支援構築事業について」
2013年の虐待による児童死亡事件を契機に、府中町では要保護児童対策地域協議会の立ち上げや予防的支援に注力している。
広島県のモデル事業として、AI（ロジスティック回帰分析）を用いたリスク予測システムを導入。ひとり親、経済的困窮、学校の欠席状況などのデータを活用している。
リスク値はあくまで指標であり、それ自体で虐待と断定するのではなく、予防的なアウトリーチ（現況届の機会や定期訪問への同行など）の優先順位付けに活用されている。
学校の校務支援システムに文科省の虐待チェックリストを導入し、教師が気づいた異変（遅刻、欠食、身だしなみ等）を福祉側とデータ連携する仕組みを構築している。
システム構築には多額の費用（数千万円単位）がかかるが、国の実証事業や県の補助金を活用して実施。
データの客観性維持のため、民生委員の主観的な情報は現時点ではスコアに含ていない。
あくまでも虐待などのこどもへの不適切な扱いを発見するためのシステムであり、不適切な扱いを発見した後の対応は行政が人力で行う。

(別紙 2)

[illegible]

(別紙 3)

■研修成果による町行政への提言

広島県が国と連携をして、AIを活用した虐待のリスクを発見するシステムを構築している。この事業は広島県だけでなく、群馬などでも実施されている。

いずれ実験段階を終えたシステムが、国から全国の市町村においてくる可能性はある。

こどもへのマルトリートメントの早期発見に役立つシステムなので、早い時期での活用が望まれる。

こどもへのマルトリートメント（虐待を始めとする不適切な扱い）早期発見があった場合、対応するのは現場職員である。その際の各課横の連携が不可欠となっている。現在でも取り組まれていると思うが、迅速な対応に期待する。

[illegible]

(別紙 4)

■添付書類

・視察次第
・資料１ 「切れ目ない子育て支援に向けて」
・資料２ 「予防的支援システム構築費用と運用保守費用」
・資料３ 「見守り対象児童に係る調査」のテンプレートシート
・資料４ 「虐待リスクのチェックリスト」